

平成 27 年 8 月 31 日

第5回マザーレイクフォーラムびわコミ会議の結果概要

◇開催概要

日 時： 平成 27 年（2015 年）8 月 22 日（土）
 <第 1 部>10:00～12:00 <第 2 部>13:15～16:30

場 所： コラボしが 21（滋賀県大津市打出浜 2-1）

主 催： マザーレイクフォーラム運営委員会・滋賀県

参加者： 205 名

参加団体： 82 団体

ブース出展団体数：26 団体

テーマ：『びわ湖はみんなの生き方を映す水鏡
 ～「つながり」をどう広げ、どう活かす？～』

内 容：



【第一部】みんなつながる報告会 10:00～12:00

ナビゲータ・川本勇（ユーストン）と佐藤祐一（琵琶湖環境科学研究センター）による進行のもと、「びわコミ会議」が開幕した。



1 開会挨拶

○松沢松治（マザーレイクフォーラム運営委員会委員長）

…漁師として、今年は魚が獲れる時期・種類が例年と異なると感じている。琵琶湖の水の色も変わってきていると感じる。そんなびわ湖のことを大いに語り合い、充実した 1 日にしてもらいたい。



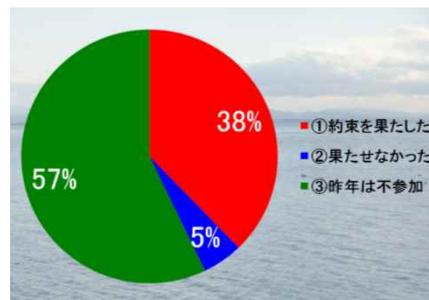
○三日月大造（滋賀県知事）

…私のコミットメントは、昨年に引き続いて「365 日びわ湖」。この 1 年は、特に琵琶湖にとって重要な水源である森林にも着目して、取組を進めていきたい。



2 昨年度のコミットメント

昨年度のびわコミ会議で各自が書いたコミットメント（約束）を、この1年間で果たすことができたかどうか会場アンケートを行ったところ、昨年度の参加者の多くが「約束を果たした」と回答。個別インタビューからも、熱心に活動に取り組んで来られた様子が伝わってきた。また、今年初めて参加した人が多いことがわかった。



3 「みんなつながる報告会」～活動団体5団体からの報告

次に、以下の5つの団体からの活動報告を行った。

- ① 「湖南企業いきもの応援団」（南啓次郎）
“中小企業連携で進める生物多様性保全の取り組みについて”
- ② 「長浜土木事務所木之本支所」（井口嘉久）
“オオサンショウウオ等に配慮した砂防工事”
- ③ 「びわっこ大使」（平成27年度びわっこ大使たち）
“こどもたちの取り組みや環境学習”
- ④ 「環境フォーラム湖東」（佐々木和之）
“環境フォーラム湖東の活動紹介”
- ⑤ 「成安造形大学」（檜垣知里、蒲生楓、松廣美咲）
“びわっこパネル制作プロジェクト”



各団体からの報告の後、それぞれの報告内容に関連するデータを提示し、2人のコメントーターが、県や学術フォーラム等の立場からコメントを行うとともに、会場も交えた質疑応答を行った。

コメントーター

- ・三日月大造（滋賀県知事）
- ・井手慎司（マザーレイク21計画学術フォーラム委員）



4 「びわ湖なう」

「びわ湖なう」と題して、参加者に配布された「琵琶湖と暮らし2015 レポート」をもとに、この1年間における琵琶湖で生じた事象等について、12のカテゴリに分類したアウトカム指標の評価のあらましや、それぞれの事象間の関係性を類推した図を中心に、小松直樹（県琵琶湖政策課長）より報告した。



5 「寄付金受領式」

午前中の最後は、今年3月にマザーレイクフォーラム運営委員会へご寄付をいただいた「びわ湖チャリティー100km 歩行大会実行委員会」様をお招きして、北野裕子前年度実行委員長からマザーレイクフォーラム運営委員会委員長の松沢松治に対し目録を贈呈いただく寄付金受領式を行った。



【昼休み（ブース展示）】 12:00~13:15

26団体からブース出展があり、参加者は昼休みの時間を利用して各ブースを見て回りながら、思い思いに出展者との交流を深めたり、情報交換を行った。



【第二部】びわ湖のこれから話さへん？ 13:15~16:30

1 交流ワークショップ

テーマ別にグループに分かれて、話し合いを行った。

まず、「話し合い」の進め方や留意点等について、司会より説明を行った。続いて、各グループの担当者が紹介され、各担当者が簡潔に各グループのテーマのポイント等を説明した。



- [1] 谷清隆 (NPO 法人 国際ボランティア学生協会)
「びわ湖と学生」…学生とともに考える ～びわ湖の新たな脅威と未来～
- [2] 南重治 (滋賀県農政水産部食のブランド推進課)
「びわ湖と食べもの」…食べることで、びわ湖を守る ～環境こだわり農産物～
- [3] 野田晃弘 (NPO 法人蒲生野考現倶楽部)
「びわ湖淀川流域と市民のつながり」…つながるための方法を考えよう ～市民レベルでどうつながるか～
- [4] 村上悟 (NPO 法人碧いびわ湖)
「びわ湖をめぐる地域での連携」…団体・企業・行政でつながりあって、それぞれの課題をプラスに転換!
- [5] 尾上怜 (滋賀県自然環境保全課) ・びわっこ大使と OBOG たち
「びわ湖と子ども」…若い私たちの環境への思い
- [6] 井口嘉久 (滋賀県長浜土木事務所木之本支所)
「びわ湖と川の生き物」…生き物に配慮した川づくり ～行政と地域社会、NPO 等との連携～
- [7] 木野剛志 (滋賀県立大学環境科学部)
「びわ湖と外来魚」…外来魚を減らす取り組みの進捗点検とアイデア出し
- [8] 奥田昇 (総合地球環境学研究所)
「びわ湖と人のつながり」…語り合おう! 野洲川流域の人と自然のつながり
- [9] 檜垣知里・蒲生楓・松廣美咲 (成安造形大学)
「びわ湖とデザイン」…「びわっこパネル」の可能性
- [10] 辻博子 (一般社団法人滋賀グリーン購入ネットワーク事務局) (→後に No.15 と統合)
「びわ湖三方よし」…企業よし、生きものよし、地域よし～「びわ湖三方よし」に向けて何ができるか?
- [11] 北野裕子 (株エフアイ、びわ湖チャリティー100km 歩行大会前実行委員長)
「びわ湖と健康」…体験で得られる5つのK ～健康・環境・観光・啓発・感動～
- [12] 山田千尋 (滋賀県土木交通部流域政策局流域治水政策室)
「びわ湖流域と水害」…どうやって水害から命や財産を守る?
- [13] 金再奎 (滋賀県琵琶湖環境科学研究センター)
「びわ湖と豊かな社会」…人口減少を見据えた豊かな滋賀づくりについて
- [14] 辻村琴美 (新江州(株) 循環型社会システム研究所)
「びわ湖とメディア」…情報発信でつながるびわ湖と市民
- [15] 川村克己 (川村工務店) (→後に No.10 と統合)
「びわ湖と住まい」…びわ湖の森を暮らしの中へ

各グループの参加人数を事前に把握するため、旗挙げによるグループ分けを行った。人数調整のため、No.10 と No.15 のグループは合同で話し合いをすることになった。サブ会場も含めて合計 14 のテーブルに分かれて、80 分にわたって話し合いを行った。各グループ内で、参加者同士がそれぞれのテーマについて議論を深めた後、「キーセンテンス」をとりまとめた。



2 私のコミットメント

グループでの話し合いを終え、メイン会場に戻ってきたところで、これから1年間、自分がびわ湖のために何をするかを宣言する「私のコミットメント（=約束）」を参加者全員にフリップに記載してもらい、一斉に掲げた。



3 第二部まとめ

14グループの代表者が登壇し、グループ内での話し合いの様子と、各グループでとりまとめた「キーセンテンス」を発表した。



○「びわ湖との約束 キーセンテンス」

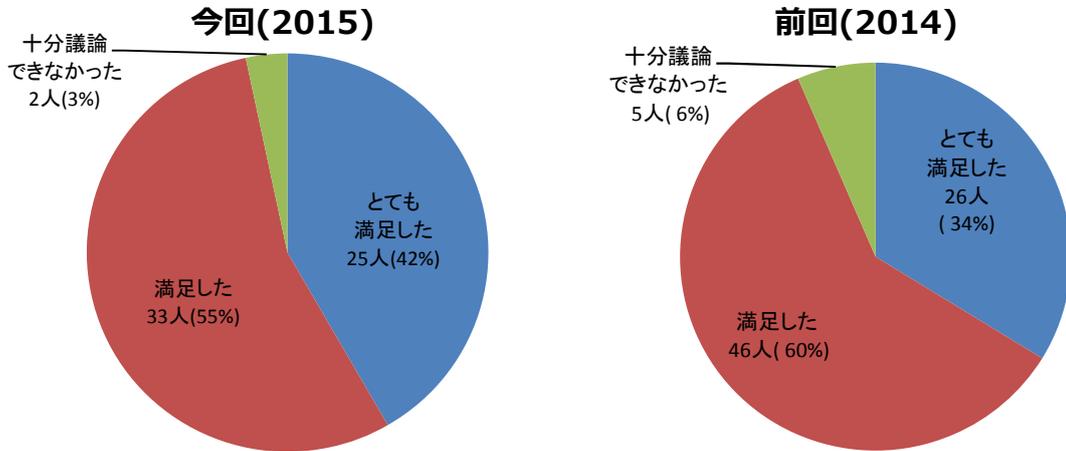
- [1] 「びわ湖と学生」…学校・地域・社会・企業をつなぎ新しい発想をもたらす学生
- [2] 「びわ湖と食べ物」…環境こだわり農産物を選ぼう!!食べる事でびわ湖を守ろう!!
- [3] 「びわ湖淀川流域と市民のつながり」…びわ湖に来て魅力を感じてもらおう
- [4] 「びわ湖をめぐる地域での連携」…地域のなかで、ボランティア“起業”と“企業”内ボランティアの支えあい、学びあいを!
- [5] 「びわ湖と子ども」…～湖魚食文化を守るため～食べておいしさを知ってもらおう!!
- [6] 「びわ湖と川の生き物」…みんなの力でびわ湖と川、田んぼや山のいきものをつなげよう
- [7] 「びわ湖と外来魚」…共有 ～みんなで考え みんなで実践～

- [8] 「びわ湖と人のつながり」…魚つかみと魚食文化の復活 上流・下流の交流
- [9] 「びわ湖とデザイン」…ほっときゃ広がる！ 子どもから大人まで びわ湖から海外へ
アナログからデジタルへ
- [10・15] 「びわ湖三方よし×住まい」…住まいづくりは人を育て、森を育てる。そして時
をつなぎ、人をつなげる。
- [11] 「びわ湖と健康」…日本一のびわ湖で楽しく運動をして、心と身体のバランスのとれた
健康を手に入れよう！
- [12] 「びわ湖流域と水害」…命を守るためまず知り、経験し、できることからする ～楽し
みながら～
- [13] 「びわ湖と豊かな社会」…人と自然とのつながりを自慢できる暮らし
- [14] 「びわ湖とメディア」…500年後の琵琶湖のために、今の琵琶湖の役割をメディアで
伝える

最後に司会者より閉会が告げられ、第5回びわコミ会議が終了した。 (16:30)

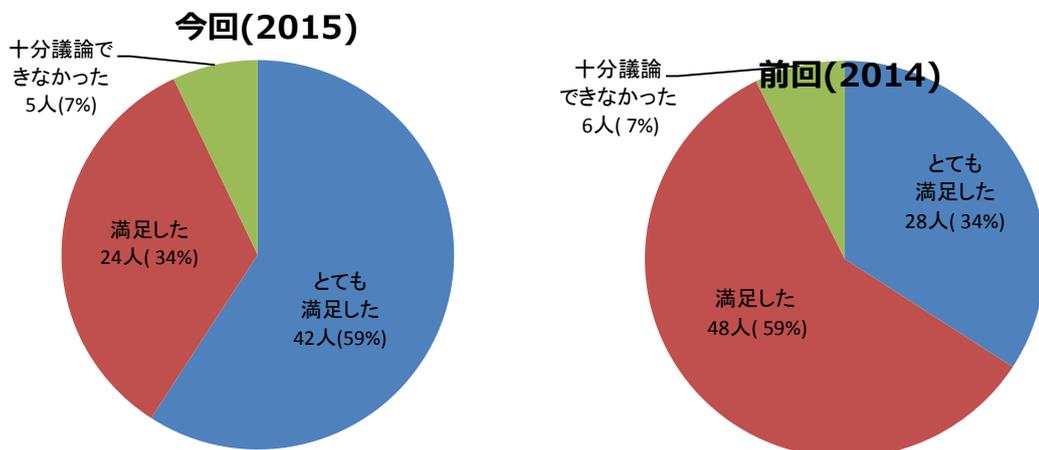
びわコミ会議 2015 会場アンケート集計結果概要

◆第1部の「みんなつながる報告会」はいかがでしたか。



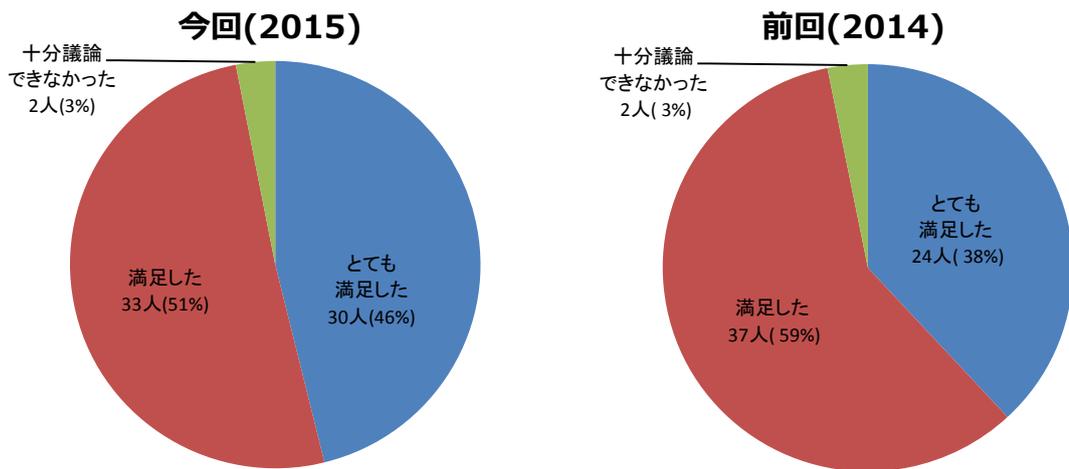
- ・「とても満足した」の比率が若干向上。
- ・記述コメントでは、各発表事例、進行、びわ湖なう、いずれも満足度の高いコメントが多かった。
- ・今回の「十分議論できなかった」の2人は、いずれも自分が遅れて来たために十分議論に参加できなかった、の意味。

◆グループでの話し合いはいかがでしたか。



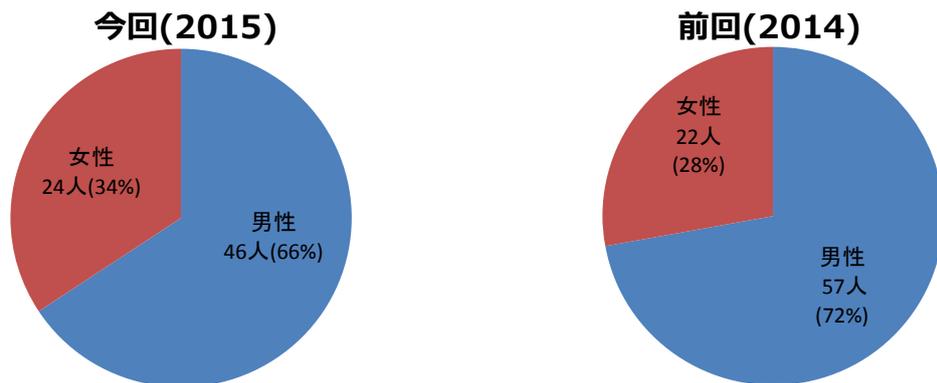
- ・「とても満足した」の比率が明らかに向上。
- ・1テーブルあたり的人数が適正化され、じっくり議論ができてよかったというコメントが多かった一方で、「十分議論できなかった」5人のうち4人は、テーブルによって人数が少なすぎたことやテーブル参加者の構成が偏りすぎていることを指摘（特に「びわ湖と学生」テーブル）。（あとの1人は、自分が遅れてきたために十分議論に参加できなかった人）。

◆全体での話し合い（「びわ湖との約束」づくり）はいかがでしたか。



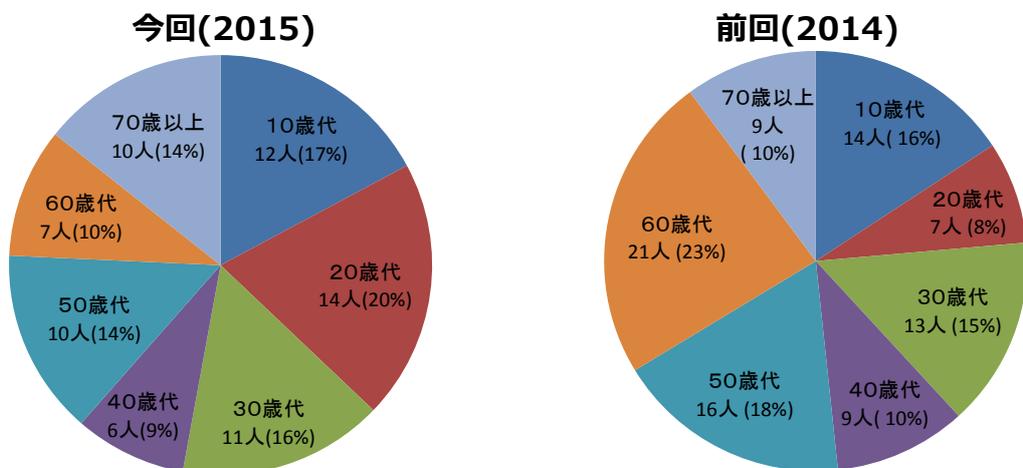
- ・「とても満足した」の比率が若干向上。
- ・さまざまなテーマでの話し合いの結果をみんなで共有できたことに満足するコメントが多かった。
- ・「十分議論できなかった」2人は、各グループからの発表者以外の発言・議論の場が少なかったことを指摘。

◆性別は。



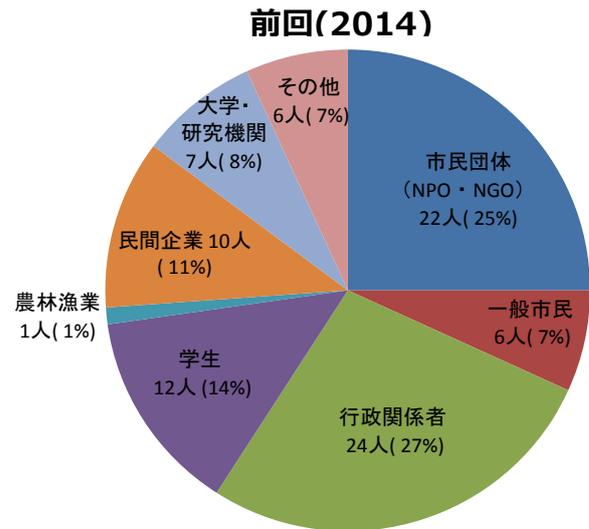
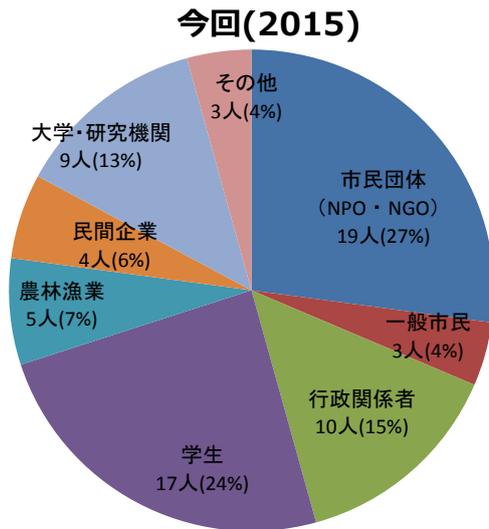
- ・女性の比率が若干向上。

◆年代は。



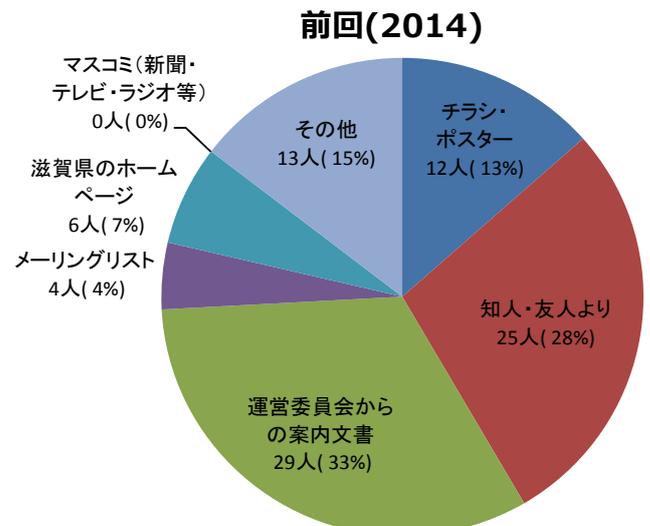
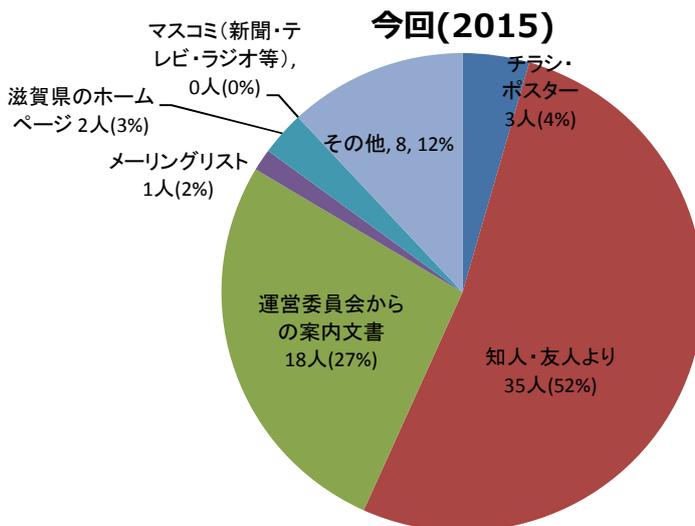
- ・学生の参加が増えたことで、20代の比率が高まった一方、前回最も多かった60代の参加が減った。

◆職業は。



・行政関係者・民間企業の比率が下がり、学生・農林漁業者・大学研究機関の比率が上がっている。

◆びわコミ会議のことを何で知りましたか。



・「知人・友人より」の比率がかなり大きくなっている。SNSを含め、口コミで広がったか？